

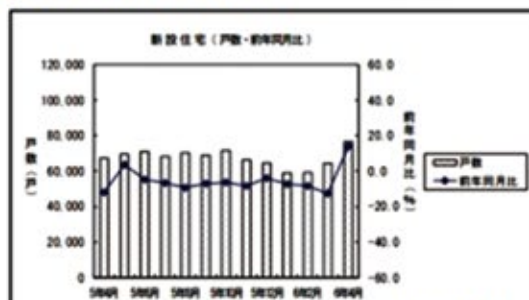
銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

5月の銅の概況および6月の見通し (2)

予想レンジ
LMEセツル 9,500-10,500ドル ●
建値 151万円-171万円 ●
為替 155円~159円 ● レンジ内
(1か月間TTM)

新設住宅(戸数・前年同月比)



出典 国土交通省統計

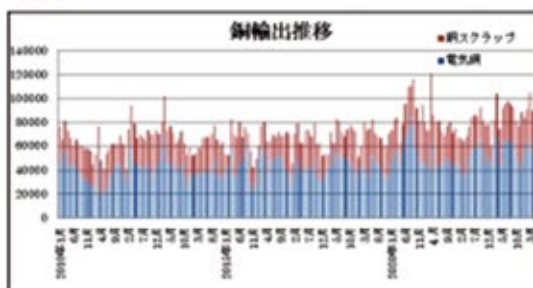
貿易関連指標

【輸出】

電気銅は+22.5%の5万4,350 t。
スクラップは+16.3%の3万5,128 t。

	2月	3月	4月
電気銅	6万3539 t	6万3931 t	5万4350 t
前年比	+11.6%	-5.1%	+22.5%
スクラップ	2万7187 t	4万555 t	3万5128 t
前年比	+12.4%	+12.1%	+16.3%

輸出推移

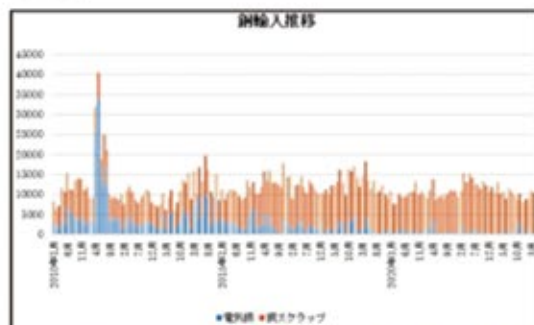


【輸入】

電気銅は+7.7%の252 t。
スクラップは+1.9%の1万94 t。

	2月	3月	4月
電気銅	1009 t	583 t	252 t
前年比	+108.5%	-33.6%	+7.7%
スクラップ	7917 t	1万361 t	1万94 t
前年比	-23.4%	-15.3%	+1.9%

輸入推移

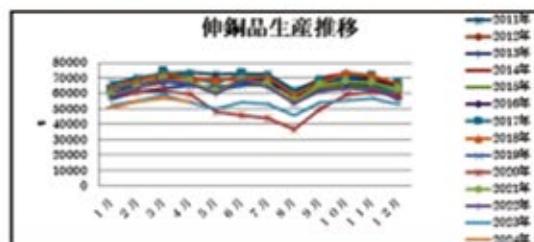


出典 財務省貿易統計

■前月の国内指標

【伸銅品生産】

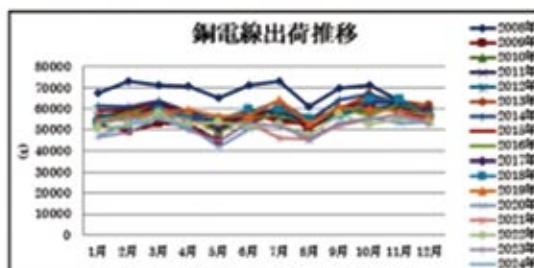
4月伸銅品生産量速報値は5万4,840トン、前年同月比0.1%増加だった。28か月ぶりにプラスに転じた。2年以上の長いトンネルを抜けた。ただ、まだコロナ前の水準に戻っていない。品目別に見ても、14品目中9品目が前年同月実績を上回った。上回った数としては2021年以来の多い数だった。ただ、2021年は前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた反動の年だった。



出典 日本伸銅協会

【日本電線工業会発の出荷速報(推定)】

前年比+2.5%の51,500 t。
内訳は国内が+1.8%、輸出が+61%。



出典 日本電線工業会

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると4月の自動車生産台数は前年比-10.3%の61万227台。輸出は前年同月比-0.6%の34万5,411台。

(次頁へつづく)

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると5月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-2.4%の20万1,643台。

【伸銅品生産】

4月伸銅品生産量速報値は5万4,840トン、前年同月比0.1%増加だった。28か月ぶりにプラスに転じた。2年以上の長いトンネルを抜けた。ただ、まだコロナ前の水準に戻っていない。

品目別に見ても、14品目中9品目が前年同月実績を上回った。上回った数としては2021年以來の多い数だった。ただ、2021年は前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた反動の年だった。

伸銅品の各用途別の需要概況は、伸銅品の回復をけん引している自動車向けが、年初来話題となってきたデータ不正問題に端を発した国内自動車の減産による伸銅品の生産への影響が、4月になって見えなくなってきた。ただ、まだ一部で影響が残っている。一方、建設関係は、大型物件があるが、個人住宅などの需要がまだ低調である。

銅条：同比20ヶ月ぶりにプラスに転じる。半導体向けの需要は、車載頼みとなっている。スマートフォン向けは、米国と中国、韓国メーカーの新型モデルに支えられている。

黄銅棒：同比28ヶ月連続マイナス。住宅着工件数が伸びない。

【見通し】**【自動車】**

4月の自動車生産が-10.3%。5月国内販売台数が前年比-0.6%。4か月連続減少。ダイハツ、トヨタ問題による生産販売低迷ではあるが減少幅が縮小。来月以降回復との予想。

【伸銅品生産】

伸銅品の各用途別の需要概況は、伸銅品の回復をけん引している自動車向けが、年初来話題となって

きたデータ不正問題に端を発した国内自動車の減産による伸銅品の生産への影響が、4月になって見えなくなってきた。ただ、まだ一部で影響が残っている。一方、建設関係は、大型物件があるが、個人住宅などの需要がまだ低調である。

【電線】

4か月連続プラス、今後に注視。

【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】銅建値が156万から一時175万へ急騰その後169万に。前月在庫は伸銅品生産減、発生減から在庫薄。需要面に関しては引き締まり。

自動車生産量は28か月連続減少だが来月以降の回復期待から。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①米FRBの金融政策

5月の米サプライマネジメント協会(ISM)製造業景況感指数(48.7)が前月から悪化、ダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想(49.6)以下だった。好不況の境目とされる50を2か月連続で下回り4月の米建設支出も前月から減少したことから米利下げ観測再燃した今後も景気減速を示す指数がでる可能性もあり潮目が変わるかも。(利下げ方向へ)

②日銀の金融政策

植田和男総裁が参院財政金融委員会に出席し、金融政策について発言。今月の金融政策決定会合でなんらかのアクションを起こすことを意識した発言だが、これまでよりも踏み込んでいる感じはない」との受け止めがあり、日銀総裁の発言は今のところ円相場への影響は限られている。

このことから155-159円でのレンジ内に動きになるのではないかと。これらを踏まえた今月の銅価格は9,500-10,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は155円-159円(TTM)台を予測。銅建値に関しては151万-171万円程度と予測している。

(「5月の銅の概況および6月の見通し」おわり)